

公益信託高知市まちづくりファンドニュース

まちファン

18号

2012年3月31日



まちづくりの種

人間関係は、少々面倒で、気遣いもし、
時には自分の意見を引っ込めて
我慢しなければいけないことも
多々あります。
元気で、不自由を感じる事が無ければ、
人はその煩わしさを避けて、
個人や家族の価値観を
優先して暮らそうとする
身勝手な一面を持っています。

けれど、
「あれっ、何か違ってない？」
「本当にこれでいいの？」
「どうにかしたい！」
「何かしたい！」
という思いは、
誰でも胸に芽生える時があるはずです。
それが、まちづくりの種だと思うのです。

種は、水と酸素と熱がなければ発芽しません。
まちファンは、同じ思いの仲間が見つかり、
人のパワーに触れることができる場所です。
種に、水と酸素と熱を与えてもらえる
場所だと思います。

目次

公益信託 高知市まちづくりファンド	
2011年度ソフトコース中間発表会	
2010年度ハードコース最終発表会	
中間・最終発表会の流れ	2
中間発表会プレゼンテーション	
「まちづくり一歩前へ」コース	2
最終発表会プレゼンテーション	
「まちづくり大きな一歩(ソフトからハードへ)コース	4
2010年度ハードコース最終発表会・	
2011年度ソフトコース中間発表会を終えて	4
お知らせ(退任挨拶)	4
2011年度ハードコース第2次公開審査会	
第2次公開審査会の流れ	5
第2次公開審査会プレゼンテーション	
「まちづくり大きな一歩(ソフトからハードへ)コース	5
質疑応答・コメント	6
2011年度ハードコース第2次公開審査会を終えて	7
運営委員の紹介	7
公益信託「高知市まちづくりファンド」とは、今後の予定	8

2011年度
ソフトコース

中間発表会・2010年度 ハードコース 最終発表会

中間・最終
発表会の流れ

2012年1月28日(土)、「公益信託 高知市まちづくりファンド」2011年度ソフトコース中間発表会・2010年度ハードコース最終発表会が開催されました。参加者(応募団体・一般・関係者)は約50名。2011年7月31日(日)開催の公開審査会において助成決定を受けた5団体と2010年度にハードコースの助成を受けた1団体が、事業の進捗状況を発表しました。意見交流会では、和やかな雰囲気の中、さまざまな意見が飛び交いました。

① プレゼンテーション



助成先団体が事業の報告を模造紙1枚にまとめ、発表(3分)。参加者が、各事業についての良い点・質問・提案・その他の意見を付せんに書く。

② 付せん貼りタイム



記入済みの付せんを各団体が発表で用いた模造紙に貼ってもらう。

③ 意見交流



運営委員が貼られた付せんの内容を団体ごとに紹介し、参加者との意見交流を実施。

2011年度 ソフトコース 中間発表会

「まちづくり一歩前へ」コース

●プレゼンテーション●

GROUP 1 頑張ろう菜園場(あの時の賑わいを取り戻したい) 菜園場商店街活性化委員会



9月に「武市半平太生誕祭キャンドルナイト」を行い、192本のローソクの前で歌や音楽の演奏をし、約100名近い参加者が集まった。10月の「土佐勤王党結成150年記念・半平太まつり2011」には、多方面からの協力を得て、約1,200名が来場した。当日はイベントと商店街の活性化を結び付けるべく、エンバサクーポンを発券。来場者に配布し、クーポン券を使って商店街で買い物をしてもらった。前回の史跡マップを少しグレードアップし、菜園場周辺観光マップを作成して、ホテルや銀行、小学校、バスのターミナルなどに配布。活動に賛同した高知婦人会から、横堀公園の武市半平太郎跡の碑の前に、ベンチを2基寄贈してもらった。

VOICE

- 史跡を生かして、ますます交流深まる商店街にしてほしい。
- 地区内で、さまざまなことに取り組んでおり、活動の幅の広さ、地域の発展性を感じられた。
- 地域愛を感じる。
- 商店街で「いくら以上購入したら、クーポンを配布する」というようにしたらどうだろう。

GROUP 2 障害者スポーツを通じて障害者理解を深め、共に生きる地域づくりをめざそう 特定非営利活動法人 高知障害者スポーツ地域振興会



出前体験交流学習を12月と2月に実施。年間6回を予定している。障害者雇用者や障害者をサポートする人への体験教室は、9月と12月に実施。あと、4月と6月に予定している。スキルアップ研修会は、12月に講師を招いて実施。リーフレットは、春ごろの完成予定。メンバーが少なく、活動が土曜や日曜に限定され、学校が希望する日に対応できないことがある。学校側と早めに折り合いをつけ、スタッフの休日等調整をして対応したい。また、ラグビー用の車いすが古いので、修理等が必要だが、資金がないので自分たちで修理や、部品調達をして対応している。今後は広報にも力を入れ、メンバーやボランティアを増やたい。

VOICE

- 継続的で地道な活動が素晴らしい。
- 活動を多くの人に知らせているので、これから更に活動を進めていけると思う。
- 親子参加にすると、もっとPRができると思う。
- この活動が広がり、ミニスポーツ大会が開かれると良い。
- メンバーとの時間調節が大変だと思う。

GROUP 3 「映画館で街なかのにぎわいを」 NPOとうちコミュニティシネマ



街なかの喫茶店の3階のフロアを借りて始めた。樹脂のパネルを使い、3段のひな壇を造り、その上にベニア板、ゴムシートを敷き、椅子を乗せて、できるだけ音がしない設備を造った。椅子はもともとあるソファやプラスチックのものを使用。3段の高低差がある、どこからでもスクリーンが見やすい空間ができた。これで、およそ30席ぐらいの席を確保。上映会は9月と11月に2回行った。鑑賞者は合計で142名。「見やすくなった」という声が寄せられた。設備については、「低い」、「硬い」という声が多く、マイナス面が出てきた。今後は商店街の人たちとの協力関係をさらに広げ、街なか映画館を定着させ、さらに見やすい、来やすい空間を広げていきたい。

VOICE

- まちなかで気軽に映画が見えるのは良い。
- 一度訪れてみたい素敵な空間だと思った。
- まちなかでこんなことをやっているとは知らなかった。もっとPRしてほしい。
- 他の上映館との違いをもっとアピールしてみたらどうだろう？

GROUP 4 大好きな高知を勉強しなそう！ プロジェクトH



9月、パワースポット第3弾・長宗我部元親ゆかりの地「若宮八幡宮」に行ってきた。自慢トーク交流会のテーマは「高知の妖怪」。市原麟一朗さんを迎え、特別企画を実施。11月、パワースポット第4弾・竹林寺ヨガ体験。1月、自慢トーク交流会。食事をしながら高知の食について、高知駅にあるパビリオンで開催。8月、10月、12月、アンケート実施ができなかった代わりに、今までの参加者、協力者に感謝する集まりを行った。今後の展開として、「勉強会」と「高知大好き自慢トーク交流会」の2本で実施しているが、自慢トーク交流会を今後の柱として、メジャーにしていく。実施日は奇数月と考えている。また、延期となっていた、HASHI氏の講演会が6月30日、7月1日に決定した。

VOICE

- 心強い。高知の応援団って感じ！
- 自慢トーク交流会は地元の誇りを再認識できる。
- 地域の歴史を知ること、より愛着がわく！
- 高知の良いところをまとめて発信、良いと思う。情報を形に活動へ、楽しみにしている。
- 子どもたちも一緒に活動できる企画を考えてほしい。

GROUP 5 チャイルドラインこうち「電話の受け手」ボランティア養成研修会 チャイルドラインとうち



第3期の電話の受け手養成講座を開催。約20名が参加している。受講生は1期生、2期生、3期生が共に学んでいる。広報活動として、子どもたちに電話を知ってもらうため、カードの配布を行っている。これからは自分たちが学校に出向き、子どもたちに手渡していき、やっていきたい。また、学校の集会等で子どもたちの前でのPR、図書館にもカードを置いている。大人には、PTAの集会等に呼んでもらい、広報をしている。開設は現在、毎週火曜、第2・第4土曜だが、震災以降は全国の子どもたちからの電話を受けているので、一日平均15件～20件。今後は、商品に電話番号を入れてもらうなど、子どもたちの目に付くような広報等を考えていきたい。

VOICE

- いろいろな問題がある時代なので、子どもの居場所をつくるのは、すごくいいと思う。
- 子どもたちと直接関わりをもち学校に行くのは良い！
- 財源確保が大変だと思うが、地域においても協力するので、できることがあれば声を掛けてほしい。
- 熱心な活動が素晴らしい。



GROUP 1

子供たちが安心して遊べる公園に！誇れるふるさとにしよう！

蒔絵台町内会



1号公園のバスケットコートは、ぬかるむような土の地面だったが、きれいに舗装整備した。また、この公園は小学生の通学路にもなっているので、整備を自分たちでやろうと、住民約80名で、階段の整備をした。3号公園は、消音フェンスを付けた。4号公園は、花をめぐる公園にしよう、もともとあった散水栓を、水やりをしやすいように奥まで延長した。花の水やりも住民全員でやっている。中間発表以降の取り組みとして、コートの名前を付けようと募集したところ、約25案あり、投票を募った。結果、「MAKIE DUNK」という名前になった。看板を新しく作ろうと、地区の運動会の時に、子どもたちに色を塗ってもらい、これを公園の壁面に付ける予定。9月の秋まつりで、3on3大会を開催。すごく盛り上がり、町外からの参加者もいた。今後の課題として、ゴミ問題が出ている。我々の思いを伝えるような啓発看板を設置する。また、子育て創生事業で各公園に遊具ができた。

VOICE

- 子どもたちで地域の交流が深まるような試みが多くされていて良かった。
- 地域の方々が一つになってやっている事を感じられて良かった。
- 地域住民と行政が連携した取り組みは、素晴らしい。
- ハード面から子どもの安全、遊び場、交流の場をソフト面も考えながらの取り組みですごく良かった。
- バスケットコートを作っただけでなく、コート名を考え、子どもたちと一緒に手作り看板を作ったことで、さらにコミュニティの形成に繋がったのでは。

二〇一〇年度ハードコース最終・二〇一一年度ソフトコース中間発表会を終えて

運営委員長 卯月 盛夫
(早稲田大学教授)

「蒔絵台町内会」は、「子育て創生事業」なども活用して、うまくハード整備ができたので、今後のソフトな部分にも期待が寄せられますね。高齢者を対象とした茶話会の取り組みがどんなふうに進捗するか、とても楽しみです。僕は埼玉県朝霞市にある公務員宿舎の建設中止となった基地跡地の公園の計画に携わっているんですが、その後の利活用について、市役所の人と市民との議論の中で、高齢者のプレーパークを造ってほしいというアイデアが出ました。蒔絵台でも今後、高齢者と子どもたちが一緒に取り組む健康増進を通じて、コミュニティ形成が進んで行くといいですね。それから、「菜園場商店街活性化委員会」と「プロジェクトH」がだんだん軌道に乗ってきた。特に「プロジェクトH」は、パワースポットなど、イベントの企画がうまいですね。発表の中で連携とかコラボという言葉が出てきました。交通事業者とタイアップした観光マーケティング、従来型の観光ではなく、行政区域も越えて地域がもっている歴史や文化の魅力をぐっと掘り下げていくことができたら面白いと思います。

「チャイルドラインこうち」が一番アクセスのあるのが中学生から十八歳までの年代ということに驚きました。この世代を中心にするべきなのか、小学生たちにもっとPRしていくべきなのかは分かりませんが、高知市やサポートセンターに協力してもらって、ワークシヨップなどで輪を広げていってほしいなと思います。「高知障害者スポーツ地域振興会」も、どうすれば車いすの修理を支えることができるかを市民に投げかけたら、もっといろいろな意見が出てくると思います。

最後に「NPO法人まちコミュニティシネマ」。僕は十年近く高知のまちづくり活動を見ていますが、今までは、ちょっと違う感じがしています。高知は熱しやすく冷めやすいとか、ちょっと派手な印象が、外から来る人間にはあったし、高知の方もそうおっしゃっていたけれど、「NPOこうちコミュニティシネマ」は、「菜園場商店街活性化委員会」や「プロ

ジェクトH」と同じく、歴史も踏まえながら文化的なものを地道に、継続的に積み上げていて、好感のもてる市民活動だと思います。椅子や空間的な問題の解決で支えることができるのであれば、そういうことを得意にしていく個人や市民団体があるはずですね。そういう時に役立ててほしいのがサポートセンターの「マッチング機能」ですね。こういった市民参加、市民主体の活動というのは、分野を超えてつながった時に初めて、次に継続するエネルギーが出てきます。お見合いのような感じで、団体と団体をコーディネートしてもらって、子ども、スポーツ、文化、歴史、教育、福祉等々、境界なしの結び付きを深め、最終発表会では、「もう一步、進んだよ」という話を聞かせてほしいと思います。



<お知らせ>

2009年度から運営委員を務めてくださいました新藤こずえ氏が、2012年3月31日(土)をもちまして、退任されることになりました。より良いまちづくりをめざして、応募団体への貴重なご助言を頂き、ファンド運営においてご尽力を賜りました。



このたび異動で高知を離れることになり、委員を退任します。北海道生まれの私ですが、まちづくりファンに関わらせていただいてから、高知という地域が持つ力、人々の素晴らしさを感じることができ、高知県民としてのアイデンティティが芽生えました。これからも高知ファンとして、新たな段階に向かうまちづくりファンを見守り、応援していきたいと思っております。高知は私にとって第二の故郷です。里帰りの際に皆様にお目にかかれることを心から楽しみにしております。

2011年度ハードコース 第2次公開審査会

第2次公開審査会の流れ

2011年7月31日(日)開催の第1次公開審査を2団体が通過。2012年1月29日(日)に開催された第2次公開審査会には、応募団体・一般・関係者あわせて約40名の参加があり、審査の結果、2団体への助成が決定しました。

1 プレゼンテーション



応募団体が事業内容を模造紙に記載し、10分以内でプレゼンテーションを行った後、20分以内で質疑応答。

2 一次判断



各運営委員が審査基準の項目ごとにA、B、Cの3段階で評価。
※A、B、Cについては下表参照

3 質疑



審査基準の項目ごとに質疑応答。

4 最終判断



各運営委員が助成するかどうかを最終判断。

「まちづくり大きな一歩」コース

●プレゼンテーション●

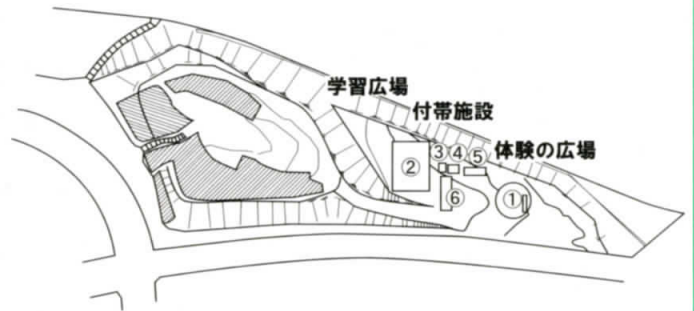
GROUP 1

『芳原・歴史とこどもふれあいの杜』

芳原まちづくり協議会

地域の人々の関心を高めるために、人々の交流の輪を広げることをめざして、歴史体験・歴史学習・自然と親しむ・祖先とふれあう4つのゾーンで構成した。メインシンボルとなる縄文竪穴住居を建設し、かまど用の大きい石、また土器や勾玉(まがたま)を作る作業場、火おこし場、歴史の話を聞く学習の場の配置を考えている。運営面では体験学習や自然とのふれあいを中心とし、体験学習は、土器作りや縄文ファッション作り、古代食作り、歴史を語ろう会等を現在考えている。さらに、高知大学、春野高校とも連携を取っており、授業の一環、またクラブ活動の一環として、今回の計画に関わってくれている。祖先の残した生活体験を学びながら、地域の歴史と文化を語り合うことによって地域への理解が深まると思う。虫取りや木の実を拾い、自然と親しんでもらうことによって、子どもたちの情操も豊かになり、芳原から地域外へ出て生活している子ども、芳原にいる高齢者たちが来て、家族と触れ合うことができる。人が集まると交流が生まれ、活性化につながっていく。

- | 体験広場 | 付帯施設 |
|--------------|----------|
| ①縄文竪穴住居 | ③火おこし設備 |
| ②広場(3間×5間程度) | ④かまど設備 |
| | ⑤土器づくり設備 |
| | ⑥道具づくり設備 |



審査結果表

●一次判断

審査基準	公益性	地域まちづくりへの発展性	資金等の的確性	創意工夫	実現性	活動に対する意欲
A 評価できる		●	●●	●	●●●	●●●●●●●●
B もう少し話を聞きたい	●●●●●●	●●●●	●●●●●●●●	●●●●●●●●	●●●	●
C 社会的に意義はある活動だが、助成趣旨には馴染みにくい	●●●●	●●●●			●●●●	

●最終判断

助成すべき	助成しない
●●●●●	●●●●●

質疑応答

同数であったため、討議 再投票(※)

●最終判断

助成すべき	助成しない
●●●●●	●●●●●

(助成申請額150万円)

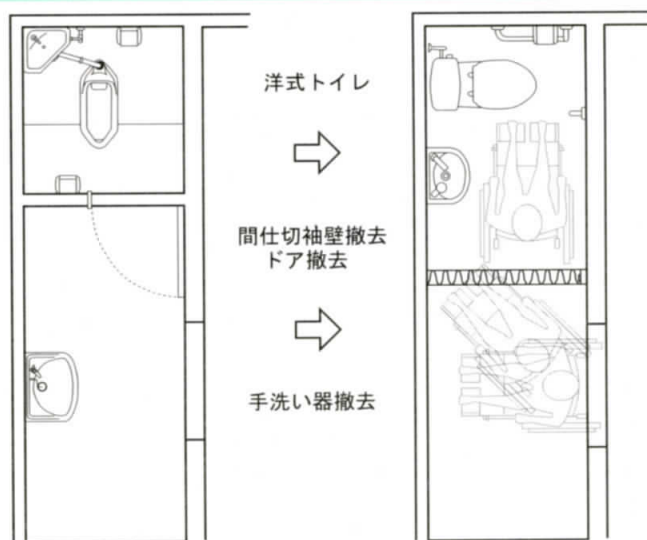
(※) 再投票の結果が同票の場合は、助成をすることを事前の運営委員会で決定済み。

質疑応答

- Q 見積もりを取る段階の話と、最終的に絞ってこの金額とした経緯を聞きたい。
- A こちらから、業者に見積もり項目を提供した。それによって、業者ごとの独自の見積もりの数字が出てきた。それと、助成申請額150万円、自己負担金240万円は、地域の人たちのボランティアでの労力や、木材を買わずに山の立ち木を提供してもらい、地域の人たちにボランティアで伐採してもらうことで申請額を減額している。
- Q 日常の管理は。
- A 運営するスタッフの人数も少ないので、日常的に施設を使うということは難しい。普段使わない時は施設のあるエリア内には入れないようにする予定。施設使用は、基本的には予約制とするが、これからもっと具体的な策を考えていかなければならない。
- Q 堅穴住居は必要なのか。何度も地域の子どもが来れるような工夫・考えがあるのか。
- A 芳原では、芳原城が発掘されたり、すぐ隣りに勾玉(まがたま)が見つかったり、近くに西分増井遺跡があったりするので、歴史を考えるシンボルとして、堅穴住居を建設したいと思った。リピーターについて、具体的には考えていない。
- Q 地元の小学校・中学校との連携や協議について聞きたい。
- A 高校生と大学生には、芳原に来て勉強してもらい、運営側に立った連携に携わってもらいたいと考えている。小学生・中学生は、芳原に見学に来て、歴史の話を聞いたり、体験学習をしてもらいたい。

GROUP 2 活動目的の達成に向けて、自立運営するためのみんなが憩える場所「コミュニティカフェ 絆」づくり 絆・ふれあい高知

2011年8月にNPO法人化し、高齢者、身体障害者、子どもたちが安全で安心して暮らせるまちづくりをしようという目的をもち、活動をしている。運営資金の確保として、カフェ絆での、コーヒーや軽食の提供、お弁当の受注を行い、趣旨に賛同した会員30名からの会費収入も運営資金にまわしている。現在は、昨年の実績を超えている。また、地域の行事に出かけ、手伝いや広報をしている。トイレは、段差があり、車いす利用者が使用する時には2名の手助けが必要。和式なので、車いす利用者には補助用具が必要。また、フロアからトイレの通路が狭いという課題がある。フロアからトイレに直結し、トイレ内の段差をなくす。既設トイレと物置との壁をなくしてトイレを広くし、洋式トイレにする。期待される成果として、高齢者、車いすの人たちが安全で安心してトイレを使用できる。そして、カフェ絆への来訪者の増加が期待できる。来てもらうことによってコミュニティが拡大され、来場者はいろいろなことを話したり、相談できる。それから、社会貢献活動を拡大できる。



審査結果表

●一次判断

審査基準	公益性	地域まちづくりへの発展性	資金等の的確性	創意工夫	実現性	活動に対する意欲	質疑応答
A 評価できる	●●●●	●●●●●	●●●●	●●	●●●●●●●●	●●●●●●●●●●	●最終判断 助成すべき 助成しない ●●●●●●●● ●
B もう少し話を聞きたい	●●●●●	●●●●	●●●●●	●●●●●●	●●●●		
C 社会的に意義はある活動だが、助成趣旨には馴染みにくい	●	●	●	●●			

(助成申請額63万円)

質疑応答

- Q 現在車いすの利用者がどの程度来ているのか。
- A 月に20名くらい、デイサービスや病院施設の利用者が来ている。
- Q 家主がすべき改修だが、家主はどういう判断か。団体が退出した時、今回改修した設備は、家主のものになるのか。
- A 家主からは「ずっと貸すから、自由に変えなさい」と了解もらった。ただ、もし何かあってやめるとなれば、家主の権利になる。
- Q 車いすの人が来始めてから、さらに別の事業は考えているか。
- A スタッフ5名、あるいは、会員30名だけで事を起こすのは難しい。
- Q スタッフ5名に負担がかかり過ぎてるのでは。きちんとした地固めをしながら、ちよつとずつ拡大して、実際に動ける人をきちんとつくり上げて、ひとつひとつ地域に根付いていってはどうか。
- A 思った程の活動は、実際にはそれほどしていない。現在は、コミュニティカフェでたくさんの人と関わり、コミュニティをつくるという段階。私たちの活動を理解してくれる人を増やしていかないと、大きなことはできない。

運営委員長 卯月 盛夫
早稲田大学教授

「芳原まちづくり協議会」は、最終判断が「助成する」五票、「助成しない」五票でした。再度、議論を重ねた上で、次の判断が同票だった場合は助成するという前提でしたが、やはり結果は同票でした。ただ、「助成する」と判断した委員の方にも条件が付いていたり、「懸念しているが頑張ってもらいたい」という期待が込められていたりしました。

僕も、昨年の第一次審査で、何人の子どもたちをどのくらい頻繁に呼んで、スタッフが何人ぐらいいいて、それを一年にどのくらいやる、といった綿密な計画と、整備の詳細な設計を検討してほしいと要望した記憶がありますが、今日の発表では、その辺りが盛り込まれていなかったのが残念でした。

課題は大きく分けて、二つあったと思います。まず、地域の広がりとしての公共性についてですが、芳原だけでなく、他の地域も視野に入れて考えてみることも他の地域でリタイアされた方や若者にも呼び掛けて運営メンバーに入ってもらって地元の子どもたちにサポートしてもらって高知市の子どもたちを引き寄せる、旧春野町と高知市との交流が生まれるよう、「旧春野町の野菜を食べて」というような情報発信をするなど、委員からいろいろアイデアが出ました。

二つ目は、整備後のソフトな活動についてですが、ひと月と一、二回、そして一時間から一時間半という計画では、地域まちづくりへの波及性・発展性というのがちよつと低いように思うんですね。予約制プラス土・日を開放する、もしくは、予約制ではなく、土日はいつも開いているという状況がつけられるよう、他の地域の方にも呼び掛けてメンバーを募る。安全面のことを考えて、普段は入口を施錠しておくということだったけれども、入ろうと思えば入れるわけです。子どもが自然と触れ合う場所をつくりたいという強い思いがあるのであれば、予約しなければ入れないという状態や鍵をかけなければいけないようなものを造ること

体、矛盾しているのではないかとこの意見もありました。なぜ、堅穴式住居なのか、ということが引つかかっていた委員もおられました。が、「自然を五感で感じてもらえる一つの入り口として、堅穴式住居が関心のきっかけになれば」という団体の熱い想いを聞いて、その活動のビジョンを知ることができました。内部でも再度、情報共有し、外向けにも発信してください。「建物ができたけれど、あんまり子どもたちが来なかった」という状況にはならないよう、子どもたちが何度も訪れたくないような仕組み、工夫についても一考していただければと思います。

「NPO法人 絆・ふれあい高知」にも検討してもらいたい課題がありました。ハード整備に関しては、社会福祉協議会の方や介護センターの相談員、市役所職員などに相談して何通りもの案を出し、ベストと思われる設計をされているとの発表でしたが、もう少し考える余地がありそうだとこの意見もありました。入ってすぐのスペースのところも、今のままでと車いすで通るにはあまりにも狭い印象です。トイレについては、介護する人によって配置の場所が変わってくるので、障害者の改修トイレに携わったことのある方に、最善の方向や位置を相談し、もう一度、チェックし直してみてください。

それから、NPOの運営体制について、現在、五人のスタッフが曜日でシフトしながら担当をしているというところで、その方々に負担がかかり過ぎているのではないかと疑問、継続している体力はあるのかといった不安を感じる委員もおりました。今後、ボランティアだけでなく、団体の活動を理解していただく会員を増やしてほしいと思います。整備後のソフトな事業の展開についても、次の中間発表会で聞かせてください。

運営委員の紹介



運営委員長
卯月 盛夫
(早稲田大学教授)

ハードコースになぜ2回の審査会があるのかをもう一度考えて欲しいと思いました。第1次審査会では提案の内容やこれまでの活動実績等が重要ですが、第2次審査会では詳細な設計内容とその金額の妥当性等が問われます。ハード部門の助成金額は大変大きいので、第1次審査を通過したグループは、ぜひ、このことを理解してください。



副運営委員長
増田 和剛
(高知中・高等学校教諭)

ハード事業には、活動するためのソフトが必要であり、それらを起動させるだけの熱意が必要です。しかし、ハード事業は作って終わりという活動ではありません。そのモノを通じて、人と関わり、人とモノとの化学変化により、一つの成果に立ち会う瞬間を演出する取り組みだと思います。



運営委員
井上 将太
(ばうむ合同会社)

ハードコースの公開審査会は、熱い想いがぶつかり合う有意義な場でした。審査のポイントは社会的な意義などもありますが、やはり「共感」をいかに得るかというところでしよう。採択された団体の方々には、まちづくりの拠点としてハードをうまく活用して、多くの「共感」を集めて欲しいと思います。



運営委員
植田 佳代
(NPO法人 デイサービスまる)

ハードの整備は、まちづくりに直結する助成ではありません。今後の展開がどうなっていくか、持てる知識と想像力を振り絞っての審査です。今回は2団体とも助成決定しましたが、苦しく、しんどい審査でした。応援コメント、辛口コメント、どちらも糧にして展開してほしいと思います。



運営委員
川崎 敬子
(グラフィックデザイナー)

今回の審査では、シニアの方のパワーを強く感じ、これからの地域はこの世代の方の動きにかかっていると改めて実感しました。芳原まちづくり協議会は、多くの人に利用してもらえるように、まだまだ課題がたくさんあると思います。どちらも地域の活性化の拠点として、長く活用してもらえ整備になりますように！



運営委員
近藤 昭仁
(元高知市市民協働部長)

今回2団体がこれまでの地域活動が評価され、事業助成となりました。「ハード事業」は助成後の地域活性化に向けた事業効果、まちづくり活動が重要となります。助成を新たな起点として、整備された施設を大いに活用され、なお一層のまちづくりの展開を期待します。



運営委員
四宮 成晴
(四宮計画事務所)

大きなお金が動くハードコース。期待度が前に出るのを抑えつつ、地域を俯瞰(ふかん)しながら無駄な使い方になってないか、費用対効果はあるのか、地域の元気につながるのか、確実性はあるのか、自分を律しながらより少ない全知全能を費やす。いやはや選考後はぐったりと疲れます。



運営委員
新藤 こそえ
(高知県立大学講師)

今回のハードコース審査は大変悩みました。ハード整備を行うと、その設備を維持・管理していかなければなりません。市民の税金が投じられることで、自分たちの思い描く「まちづくり」を実現するための責任と義務が生じます。その責任を全うすることを通してまちづくり活動を前進させてください！



運営委員
堀 洋子
(社)高知県建築士会)

今回は2団体に助成されました。その1つが旧春野町で堅穴式住居を建て、地域に残る縄文からの歴史・生活・自然学習の場として3世代を結び、地域活性化に取り組む活動です。この活動を通して、春野町と従来の高知市民との結び付きができれば、山川海の豊かな自然環境がある合併後の高知市が分かるように思います。



運営委員
宮地 貴嗣
(ラ・ヴィータ 宮地電機機)

今回もなかなか難しい審査でした。事業を行うことによって高知市民の皆さんの生活にどのような変化があるのかを考えると、審査員全員がよし、となるのは難しいことです。ソフトとハードの両方が揃わないといけないですね。助成決定した2事業ともそのことをよく考えて取り組んでほしいです。

公益信託「高知市まちづくりファンド」とは

公益信託「高知市まちづくりファンド」は、「市民と行政のパートナーシップのまちづくり条例」に基づき、まちづくり活動団体への助成を目的に、高知市が四国銀行に3,000万円を出捐(しゅつえん)して創設しました。助成先は公開審査会で決定し、透明性の確保とともに、市民同士の交流や、まちづくりの学びの場となることを目的としています。多くの人にまちづくりに興味をもってもらい、まちづくりに参加するきっかけとなるような運営をめざしています。

「まちづくりはじめの一步」コース

まちづくりへの参加の第一歩を踏み出そうとしている市民団体、あるいは活動を始めているが、まだ定着していない市民団体の活動を支援します。

助成金額 上限5万円

審査方法 書類審査で助成先を決定します。助成が決定した団体は、公開審査会で活動内容の紹介をしていただきます。

「まちづくり一歩前へ」コース

市民団体が継続して行うまちづくり活動を支援しています。

助成金額 活動事業費の $\frac{1}{3}$ 以内で、上限30万円

審査方法 公開審査会において、活動の内容について発表をしていただき、公開審査で助成先を決定します。

お問い合わせ先:高知市市民活動サポートセンター TEL 088-820-1540

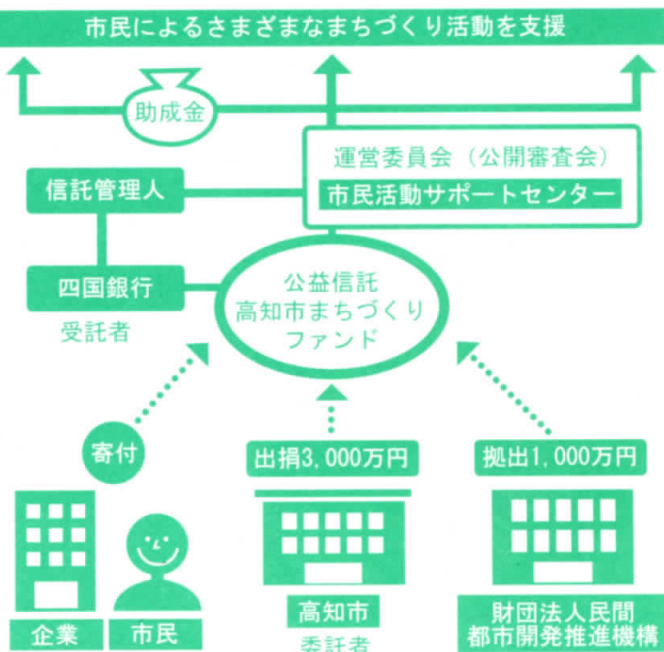
「まちづくり大きな一歩(ソフトからハードへ)」コース

高知を住みよいまち、豊かな地域社会にしていこうと行うまちづくり整備事業を支援します。

助成金額 上限300万円

審査方法 第1次公開審査会において、整備の内容について発表をしていただきます。審査通過団体には、計画を具体化するための費用として10万円を限度に助成。第2次審査書類提出、現地調査後、第2次公開審査会において発表をしていただき、1件程度、助成先を決定します。

お問い合わせ先:株式会社四国銀行 お客さまサポート部 信託担当 TEL 088-871-2226



四国銀行コメント

株式会社四国銀行
お客さまサポート部 信託担当

四国銀行では、「高知市民の自主的なまちづくり活動を支援していく」という信託設定の趣旨に沿って助成事業を行います。受託者としてファンドの管理・運営を行うことにより、まちづくり活動の一端を担い、私たちみんなの大切な高知市をより住みやすいまち、豊かな地域社会にしていこうとのお手伝いができるよう努めていきます。

私たちもお手伝いします。

高知市市民活動サポートセンターコメント

当サポートセンターでは、まちづくりファンドの申請に関する相談や、公開審査会等の運営のお手伝いをしています。皆さまのまちづくりに対する想いを実現できるよう、支援していきたいと考えています。まちづくりファンドの申請に関する事、また、まちづくり活動や市民活動に関する事等、いつでもお気軽にご相談ください。

まちづくりファンドは皆様がまちづくり活動を支援する仕組みです。

まちづくりファンドの創設にあたり、高知市から出捐(しゅつえん)された3,000万円は、毎年取り崩しながら助成していくこととなります。少しでも永くまちづくりファンドが市民のまちづくり活動に活かされるように、多くの皆さまのご寄付をお願い致します。

寄付に関するお問い合わせは、下記にご連絡ください。

株式会社 四国銀行
お客さまサポート部 信託担当

〒780-8605 高知市南はりまや町1丁目1-1

電話:088-871-2226(直通)

高知市市民活動サポートセンター

市民に利用していただき、市民活動の輪を広げようと、1999年4月に高知市が設置した施設です。運営を「特定非営利活動法人NPO高知市民会議」が担っており、ボランティアや市民活動に関する様々な相談や情報の提供、活動に必要な機器の利用や会議室の貸し出しにも応じています。仲間を広げたり、活動のお知らせをする掲示板や団体を利用できるメールボックスもあります。活動の参考になる講座等も開催していますので、お気軽にご活用ください。

今後のまちづくりファンド(予定)

審査会・発表会は、どなたでも参加することができます。まちづくり活動に関心のある方の交流の場として、お気軽にご参加ください。場所は、高知市文化プラザかるぼーと11階大講義室を予定しております。

「まちづくりはじめの一步」「まちづくり一歩前へ」コース

2011年度助成事業

最終活動報告書の提出期限 7月 5日(木)
最終発表会 7月28日(土)

2012年度助成事業

応募受付期間 4月20日(金)~6月 7日(木)
事前説明会 5月11日(金)・5月13日(日)
公開審査会 7月29日(日)

「まちづくり大きな一歩(ソフトからハードへ)」コース

2011年度助成事業

中間発表会 7月28日(土)

2012年度助成事業

応募受付期間 4月20日(金)~6月 7日(木)
事前説明会 5月11日(金)・5月13日(日)
第1次公開審査会 7月29日(日)

発行

高知市市民活動サポートセンター

〒780-0862 高知市鷹匠町2丁目1-43 高知市たかじょう庁舎2階

TEL:088-820-1540 FAX:088-820-1665

E-mail:npokochi@siminkaigi.com 【URL】http://www.kochi-saposen.net/